一鉄の色である。この還元が不十分であると，黄色味がかったり，白っぽかったりする生焼けの須恵器が出来るのである(註２)。

本窯跡より採集した須恵器が明褐色であるのも，それらが生焼けであるためと思われる。なぜ還元が十分に行なわれなかったのか，その原因については推測の域を出ないが，技術的な欠陥か，或は，現在露呈している断面が焚口に近い部分であり，そのため比較的空気の流入が多量であったためではないかと考えられる。

３．県内の窯跡分布

県内では，本窯跡（今後，八辺窯跡と称したい）を含め15箇所ほどの窯跡が発見されている。

図１－１．八辺窯跡：八日市場市吉田地区八辺
同　２．浅間台遺跡：印旛郡富里村根木名
同　３．台畑遺跡：印旛郡富里村立沢
同　４．吉川遺跡：印旛郡富里村吉川
同　５．宇津志野遺跡：千葉市大井戸町宇津志野
同　６．石川須恵器窯跡：市原市石川（平安）
同　７．永田・不入須恵窯跡：市原市不入字沢田（奈良・平安）
同　８．高島遺跡：木更津市矢那字高島
同　９．露岬窯跡：木更津市矢那字露岬
同　10．伊豆山古窯跡：木更津市矢那字伊豆山
同　11．山ノ下古窯跡：木更津市矢那字山ノ下
同　12．上名主ヶ谷窯跡(1)(2)：木更津市矢那字上名主ヶ谷
同　13．金二谷台窯跡：木更津市矢那字金二谷台
同　14．北谷窯跡：木更津市請西字北谷
同　15．太田学窯跡：鴨川市太田学

これらの窯跡のうち，その時期など性格の明確なものは数少ない(註３)。

以上を以て八日市場市吉田地区八辺所在の須恵器窯跡の紹介とする。尚，採集遺物の何点かを，胎土分析の目的で，奈良教育大学の三辻利一先生のもとへ送っている。また，この窯跡の紹介にあたり，御協力頂いた方々に感謝の意を表します。

（７班・多古事務所）

註

１）『八日市場市史』上巻　昭57
２）田辺昭三『須恵器大成』　昭56
３）図１－２以下は，千葉県広報協会『千葉県埋蔵文化財分布図』より抜粋。尚，７については，国士館大学文学部考古学研究室『永田・不入須恵窯跡』昭53による。

房総五輪塔小考

斎木　勝

五輪塔は石造仏塔の一種で，供養塔や墓塔，舎利塔として造立されている。塔形は上部より宝珠の空輪，請花の風輪，笠の火輪，塔身の水輪，基礎の地輪からなり，形のうえから宝珠形，半円形，三角形，円形，四角形である。

県下に造立されている五輪塔は『元和』銘まで限ると53基確認される(註１)。最古銘は松戸市円能寺の『応永十七年』でこれを含め，室町時代前期の五輪塔が，千葉市来迎寺の『宝徳四年』銘塔まで11基，同中期の五輪塔は山田町野平香峰氏蔵の『天文二』銘塔まで６基，同後期の五輪塔は横芝町光台寺の『永禄八年』銘塔まで10基，桃山時代の五輪塔は佐原市惣持院跡の『慶長十九年』銘塔まで14基確認されている。

ほぼ時代順に掲図したが，資料的には少ないので時代別の変遷を捉えるまでには至らない。そこで型式別に概観してみたい。なお，紀年銘はないが鎌倉あるいは南北朝時代造立と思われる五輪塔も数基あるので報告したい。

石塔の計測に際して、尺寸法に留意するのは造

塔の場合何らかの計画寸法があったのではないかと思うからである(註２)。依頼されたり，規格や市販の塔を用いるにしても，塔の寸法というものがあり，したがって塔勢を尺寸法に換算して各材寸法をみることが必要と思われる。

I

整形五輪塔（図１－１，２，７，図３－22～25 図４－26，27）

宝珠形の空輪，半円形の風輪，方錐形の火輪，円形の水輪，四角形の地輪とを重ねた最も普通にみられる塔形である(註３)。

１は５尺５寸塔であるが水輪の上下が逆である。地輪の高さに対する幅の比率は1.26であり，火輪の高さに対する軒幅の比率は1.53を示す。

２は地輪が埋没しており下面を確認することができなかったのは残念である。全体的に塔高を持つことが指摘できる。火輪の総高に対する軒幅の比率は1.45を示す。

７は５尺７寸塔でほぼ完存している。四面にそれぞれ紀銘をもつ。地輪の高さに対する幅の比率は1.13を示す。水輪は最大径をやや上位にもち２尺を測る。火輪の総高に対する軒幅の比率は1.39を示し、上面には径20cm、深さ８cmの枘孔を穿つ。空・風輪は一材彫成で空輪はやや角張る状態である。

西福寺塔（図３－22）

県下に建立されている五輪塔としては最古であり最も優美な石塔である。安山岩製で銘文はない。

五輪の総高は224cmでこれを尺に換算すると７尺４寸と完数に近い数値が得られる。

基壇は６材の切石を正面，背面各２材，側面各１材ずつ組む。高さは24cmを測る。反花座は総高37cm，側面高22cm，幅131cm，幅５cmの輪郭を設け２区にわける。内面は1.5 cm彫り窪める。反花は複弁２葉を配し，隅も複弁の反花を刻出する。全体的に彫成は深く，肉厚で丸味を帯び重厚さを示す。また，１単位の反花を幅１尺にし文様の区割をしている。

地輪は高さ55.5cm，幅82cm，各面素面である。水輪は高さ58cm，直径80.5cm，下面より35cm上が最大径を示す。火輪は総高51cm，軒は厚さ中央18cm，隅20cm，幅は上端下端ともに85cmであるから軒口は垂直に切ったものとみてよく，軒端より19cm入ったあたりから反りはじめ，隅で10cm反転する。四注の屋根は勾配が急である。風輪は空輪と一材で彫成し高さ24.5cm，上端径47cm，下端径30cmでほぼ中位から上端にかけて直立する。空輪は先端が１部欠けているが乳頭状に突起していたと思われる。ほぼ球形を呈し，高さ35cm，径44cmを測る。

以上の塔勢からみて，鎌倉市極楽寺忍性塔（註４）あるいは茨城県三村寺跡五輪塔（註５）に近似しており，鎌倉後期（14世紀初頭）の造立と思われる。

大日寺塔（図３－23，24，25）

23は反花下を埋められた石塔で，五輪の総高は236 cmで尺に換算すると７尺８寸塔となる。

地輪は高さ67cm，幅80cm，各面素面である。水輪は高さ49.5cm，直径81cm。火輪は総高51cm，軒は厚さ中央17cm，隅20cm，幅は82cmで軒端より17cm入ったあたりから反りはじめ，隅で８cm反転し，四注の屋根は他に比べややなだらかである。上端は一辺39cmで，上面には直径15cm，深さ９cmの枘孔を穿つ。風輪は高さ26.5cm，上端径43cm，下端径24cm，上面には直径13cm，深さ３cmの枘孔を穿つ。なお，水輪は天地逆で後世の積違いと思われる。

24は総高130cm，25は157cmを測る。総体的に５尺塔前後の規模が多い。地輪の高さに対する幅の比率は24が1.22，25が1.31を示し，室町時代前期の様相をもつ。水輪は24がやや長胴形を示し，25は最大径を上位にもつ。火輪の総高に対する軒幅の比率は24が1.53，25が1.55できわめて近似値を示す。24は軒端上部が欠損しているので，形状的に異なるように看取されるが，弓状に反り返る形式は全く同じである。上面には径12cm，深さ７cmの円形枘孔を穿つ。

23は14世紀前半頃造立という報告だが(註6),地輪がこの期にしては高さをもち過ぎで，水輪もややつぶれており，のびやかさを感じないことから鎌倉後期よりは新しい時代の造立と考えられる。

車ノ前塔（図４－26）

東葛飾郡沼南町車ノ前の畑の一隅，木立の中にある。基盤が整備され，また，各輪をコンクリートで固め，しかも火輪の上端より斜めに欠損しているが，それでもなお中形塔として優美さを示している。

安山岩製で，総高154cmを測るところから5尺塔として造立されたものだろう。各輪には東方発心門の種子を刻むが，刻み方は浅い。地輪の高さに対する幅の比率は1.18を示す。水輪は高さ35cm，直径50cmを測り，やや上位に最大径をもつが，弧状を示す形状は見事である。火輪の高さに対する幅の比率は1.41を示す。屋根の勾配は急で上面が突出する感じである。空・風輪は一材彫成で、空輪が高さをもつ。

塔勢より南北朝期造立と思われる。

ジャジャシキ塔（図4－27）

五輪塔は市原市境に近い千葉市越智町ジャジャシキに所在する。

安山岩製で総高137cmを測り，4尺5寸塔として造立されたものと思われる。各輪には五輪塔四方の種子を刻出する（註7）。

地輪の高さに対する幅の比率は1.28を示す。水輪は高さ34cm，径50.5cm，最大径が上位にある。

番号	所在	住所	紀年銘	西暦	石質	銘文形式	備考	図番号
1	円能寺	松戸市千駄堀745	応永十七年十月日	1410			地輪のみ	
2	来迎寺	千葉市矗町1－7	応永卅二　二月十五	1425	安山岩	B		図1－1
3	同	同	応永卅二　二月十五	同	同	同		
4	同	同	応永卅二　二月十五	同	同	同		
5	同	同	応永卅二　二月十五日	同	同	同		
6	同	同	応永卅二　二月十五	同	同	同		
7	同	同	応永卅二　九月十三	同	同	同		
8	成就院	鴨川市太田学	永享四年六月日	1432		A	地輪のみ	
9	来迎寺	千葉市矗町1－7	永享八年三月十五日	1436	安山岩	B		
10	長楽寺	木更津市請西982	永(享)八年十一月廿八日	同	同	紀年左側形式		図1－2
11	来迎寺	千葉市矗町1－7	宝徳四年八月五日	1452	同	A		
12	東泉寺	木更津市犬成	文明十六　九月念五	1482	同	B		
13	妙満寺	鴨川市八色372	(永正)□年(二)月十三(日)		凝灰岩	A	水・地輪のみ	図2－11
14	同	同	(永正)［　　］		同	同	同	図2－12
15	地蔵院	鴨川市池田260	大永六年□月日	1526	同	B	同	図2－14
16	惣持院跡	佐原市香取	享禄三季五月□八日	1530	砂岩	A	地輪のみ	
17	野平香峰	香取郡山田町田部	天文二　八月一日	1533		B		
18	海隣寺	佐倉市海隣寺	天文十六□	1547	砂岩	A		図1－3
19	地蔵院	鴨川市池田260	天文十八(天)三月□	1549	凝灰岩	紀年左側形式		図2－15
20	円福寺	銚子市馬場293	天文廿三　七月廿八日	1554	砂岩	A		図1－4
21	惣持院跡	佐原市香取	天文廿四年十一月吉日	1555	砂岩	同	地輪のみ	
22	薬師寺	匝瑳郡野栄町川辺2877	弘治二年卯月十四日	1556				
23	地蔵院	鴨川市池田260	(弘)治二年［　　］日	同	凝灰岩	B	水・地輪のみ	図2－16
24	長安寺	鴨川市宮山1597	永禄三天四月廿(六)日	1560	同	同	同	図2－18
25	惣持院跡	佐原市香取	永禄五年十月十九日	1562	砂岩	A		
26	自性院墓地	安房郡和田町海発1459	永禄六天二月日	1563		同	水・地輪のみ	
27	光台寺	山武郡横芝町寺方	永禄八年三月九日	1565		B		
28	長源寺	佐倉市臼井田	天正二年十二月七日	1574	砂岩	D		図1－5
29	見徳寺	八日市場市万イ2950	天正三年六月十四日	1575		A		
30	地済寺	鴨川市代330	天正五天□月七日	1577	凝灰岩	B	水・地輪のみ	
31	勝胤寺	佐倉市大佐倉1467	天正(七)年［　　］四日	1579	砂岩	A		
32	海隣寺	佐倉市海隣寺	天正十年十一月廿六日	1582	同	同		
33	円福寺	銚子市馬場293	天正十年□月廿九日	同	同	同		図1－6
34	千葉寺	千葉市千葉寺167	天正十午	同	安山岩			図1－7
35	海隣寺	佐倉市海隣寺	天正十三年五月七日	1585	砂岩	A		
36	西光寺	八日市場市米倉ホ2611	天正十三季七月七日	同	同	B		
37	惣持院跡	佐原市香取	天正十三年八月吉日	同	同	A	地輪のみ	
38	海隣寺	佐倉市海隣寺	天正十七年七月吉日	1589	同	同		
39	長泉寺	香取郡干潟町鏑木	(天正)十七年八月廿日	同		同		
40	大慈恩寺	香取郡大栄町吉岡182	慶長九季二月今日	1604	砂岩	同		図2－8
41	惣持院跡	佐原市香取	慶長十九年二月五日	1614	同	B	地輪のみ	
42	竜福寺墓地	海上郡海上町岩井120	慶長廿年十月二日	1615	同		同	
43	大巌寺	千葉市大巌寺180	元和二年五月晦日	1616		D	同	
44	長楽寺	木更津市請西982	元和六年四月二日	1620	安山岩	D		図2－19
45	東福寺	流山市鰭ヶ崎1303	元和(六)九月十七日	同		願文左側・紀年右側形式		
46	本覚寺	流山市西平井1432	元和第七　三月十三日	1621		B		
47	原氏墓地	東葛飾郡沼南町手賀	元和七天今月吉日	同	安山岩	願文左側・紀年右側形式		図2－20
48	同	同	同	同	同	同		図2－21
49	妙経寺	市原市姉崎	元和八年五月十八日	1622		D		
50	西光寺	八日市場市米倉ホ2661	元和八年拾月廿四日	同		A	地輪のみ	
51	日蓮宗廃寺址	流山市向小金新田	元和九年八月廿二日	1623		D		
52	長福寺	流山市中	元和十年二月日	1624		C		
53	同	同	同	同		同		

表1　房総五輪塔資料集（千葉県『千葉県史料，金石文篇一～三』を参考とする）

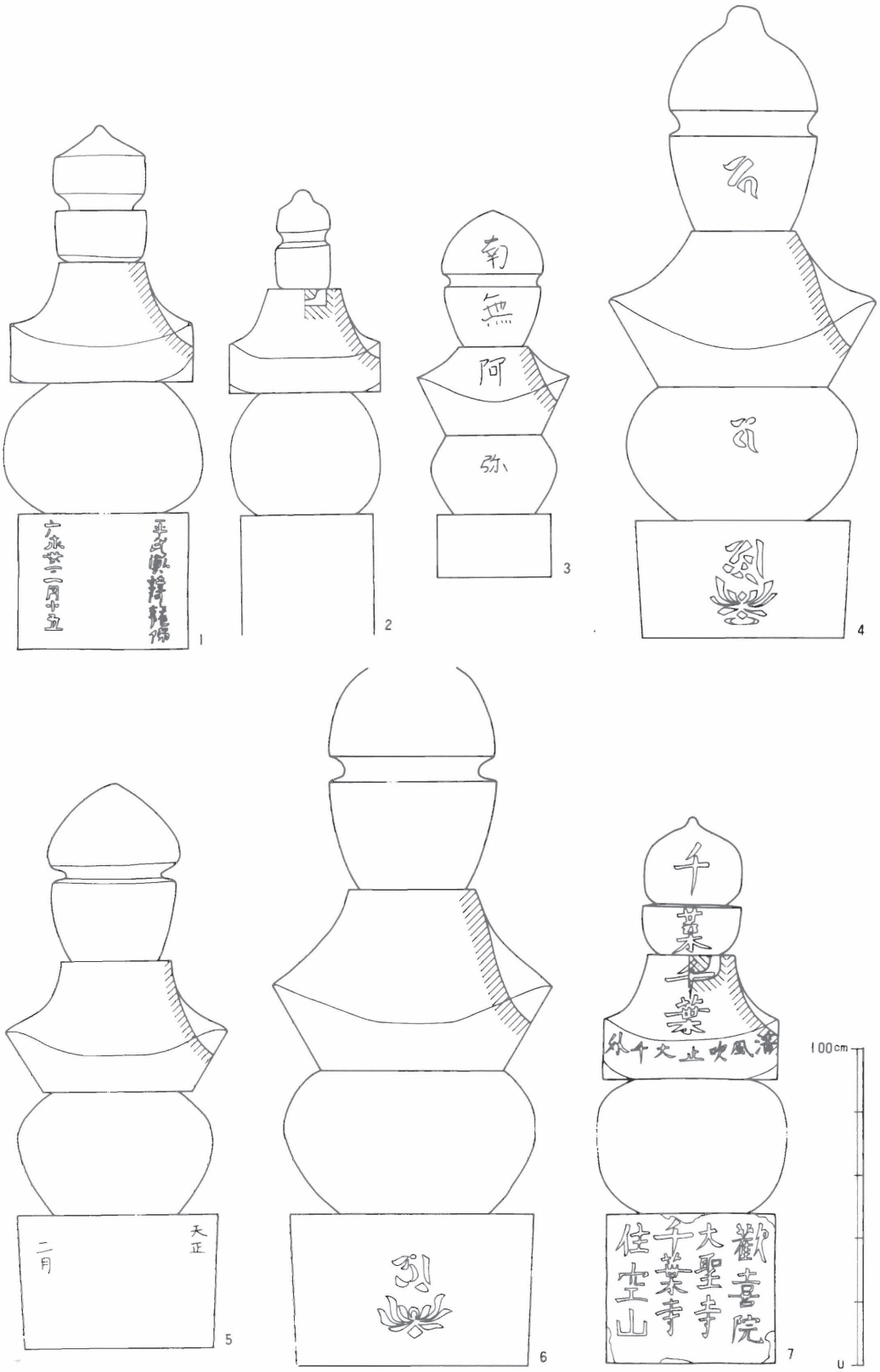

図1 五輪塔実測図(1/20)(1, 7, 9, 23～25, 27は註6文献に加筆して掲載)

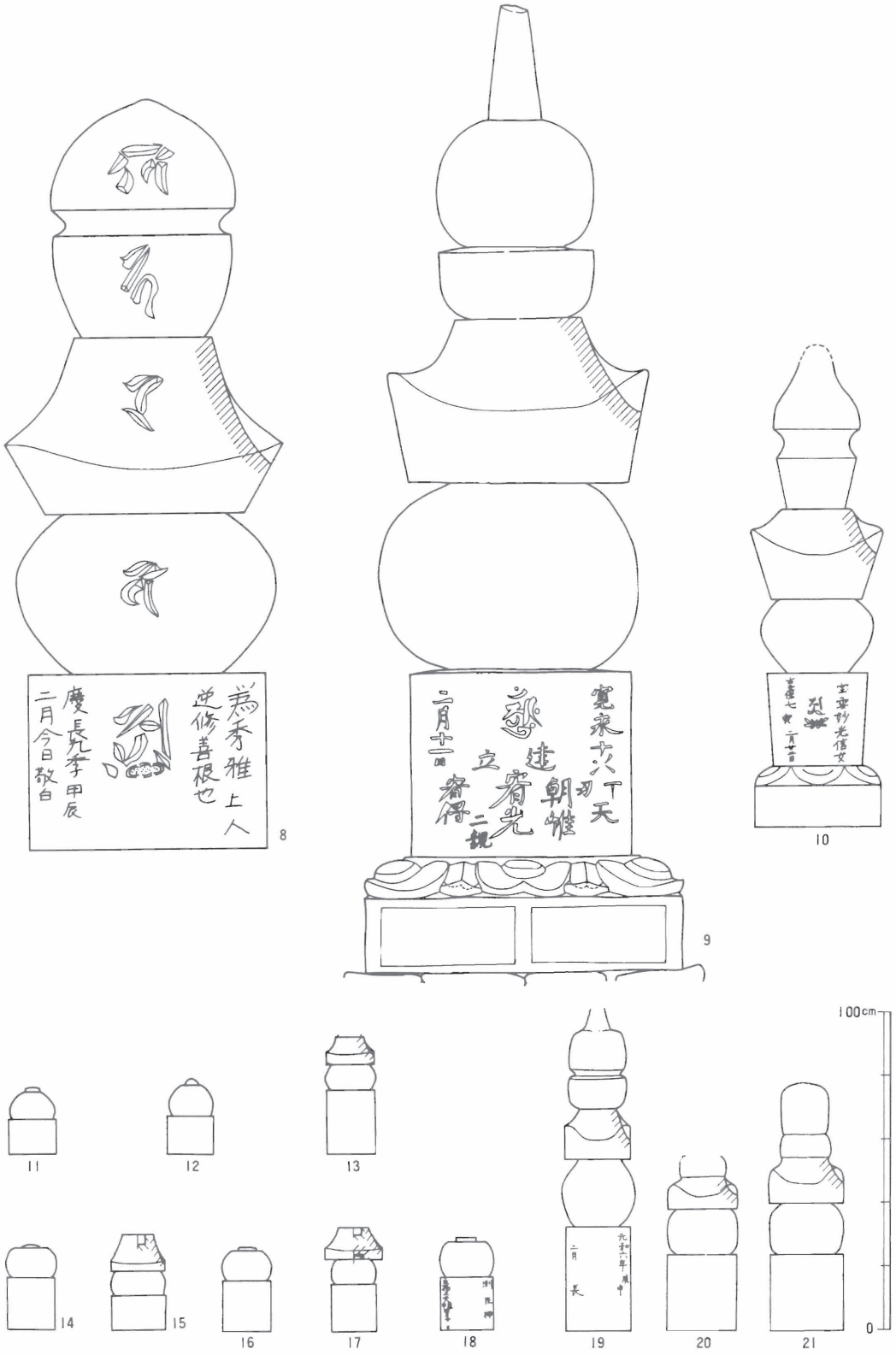

図 2　五輪塔実測図(1/20)

上面には径15cm，深さ8cmの納入孔がある。火輪の総高に対する軒幅の比率は1.5を示す。上面には径9cm，深さ6cmの枘孔を穿つ。空・風輪は一材彫成で，空輪は球状を呈す。

塔勢より室町前期の造立と思われる。

下総型五輪塔（図1－3～6，図2－8，10）

本型式に類別した一群は，石材が白亜紀砂岩を用いていること，空・風輪がきわめて太く重々しいこと，火輪の軒口が斜截され，屋根の軒端がはねあがること，水輪は最大径をやや上位にもち，上面幅が火輪下面幅とほぼ一致すること，地輪は上面幅が下面幅より広い場合が多いことなどが指摘できる。分布範囲も利根川下流域の海上，香取，印旛地方に限られる。この様相は東京都下の青梅市，五日市町地方に流布する伊奈石石塔に近似している。

石塔の総高を尺に換算すると，3は3尺9寸，4は6尺6寸，5は6尺，6は7尺6寸，8は7尺8寸，10は5尺であり，慶長以前は中形塔が多い。

塔形が整っている大慈恩寺塔によってこの型式を説明してみたい。地輪は幅75cm，高さ54cmで，比率は1.39を示す。水輪はやや上位に最大径をもつ。火輪は高さ55cmで軒口は斜截され，軒端中央は弧状にやや凹み，屋根の勾配は急である。空・風輪は一材で，総高75cmで2尺5寸と完数に近い数値が得られる。各輪正面にはキャ，カ，ラ，バ，アが刻銘されている（図2－8）。

10は銚子市威徳寺の数多くある同型式五輪塔のひとつで『享保七年』の紀年銘が確認される。塔勢をみると反花座を設け，各輪上面のほうを幅広にしているため，不安定さがある。

小形五輪塔（図2－11～18）

小形という規定は4尺以下という指摘があるが（註8），この五輪塔は安房地方，特に鴨川地域に分布する五輪塔できわめて地方的な型式である。1尺5寸前後が多く，石材は付近に産する凝灰岩を用いている。水・地輪が同材のもの（11，12，14，16～18），火・水・地輪が同材のもの（15），一材彫成のもの（13）がある。

一石五輪塔（図2－19～21）

一石五輪塔とは空輪から地輪まで一材彫成ということで，塔勢をみると2尺5寸塔（20，21），3尺5寸塔（19）が確認される。安山岩製で一材によることから方柱材への加工として捉えられる。したがって五輪塔として加工する際，各輪をどの位の比率で刻出していくかをみるとほぼ近似値を得ることができた。それによると，総高100に対し，空輪は23，風輪は10，火輪は17，水輪は20，地輪は30の比率である。

近世五輪塔（図2－9）

本類は江戸時代造立の五輪塔を指す。この千葉市幕張，首塚所在の五輪塔も総高を尺に換算すると9尺となる大形の石塔である。この期の五輪塔をみると，各輪が別材になり調和をもたなくなる。

地輪は立方体に近くなり，水輪も球形に近い。火輪は軒口が全体の半分以上を占める。風輪・空輪も別材になり，空輪の上面には円錐状の突起を造り出す。

II

銘文形式

石塔に対する紀銘としては，A．願文右側・紀年左側形式，B．法名右側・紀年左側形式，C．願文中央・紀年左右割書形式，D．法名中央・紀年左右割書形式の四形式がある。

A；願文右側・紀年左側形式

資料番号33（図1－6）

奉造立五輪□脩權大僧都
□□法印逆修善根七分全□
ア
乃至法界平等利益而已
天正十年壬午□月廿九日

B；法名右側・紀年左側形式

資料番号2（図1－1）

平氏胤語阿弥陀佛
广永卅二二月十五

C；願文中央・紀年左右割書形式

資料番号53

元和十年
キャ　カ　ラ　バ　ア　為妙□禅ロ
逆修建□
二　月　日

D；法名中央・紀年左右割書形式

資料番号44（図2－19）

元和六年庚申
法印權大僧都祐範上人
四月二日上請総西長谷寺

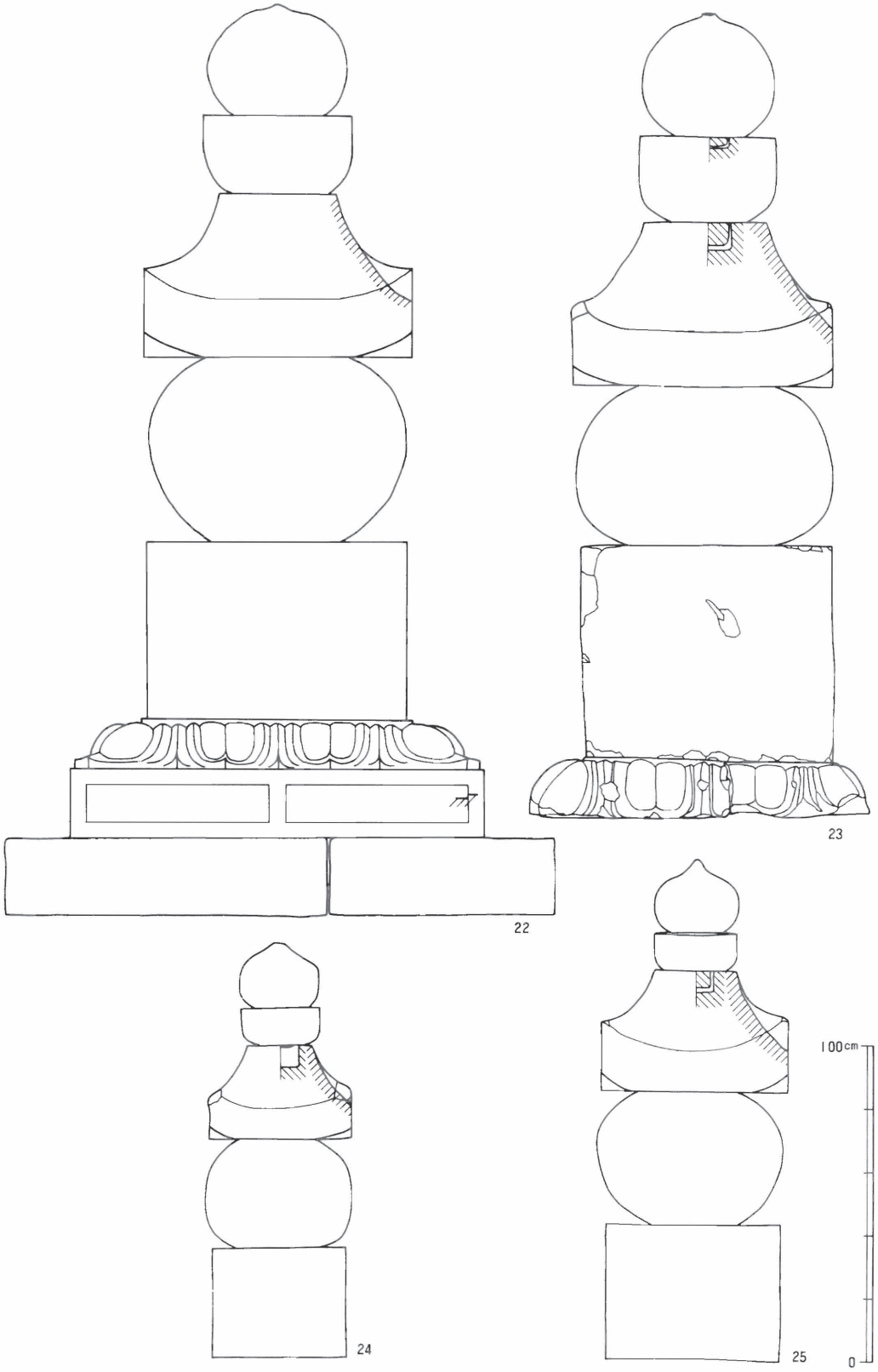

図 3　五輪塔実測図(1/20)

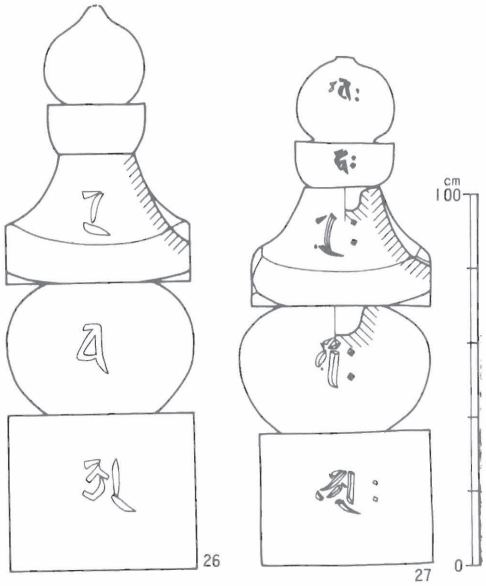

図4 五輪塔実測図（1/20）

銘文の刻記について，一石五輪塔では法名を右側に，年号を中央，月日を左側にする形式を古いとし，また，年号を左側の月日上に刻む形式を天文頃を上限とし，その後は法名を中央に紀年を左右割書にした形式を新しいとする指摘がある（註9）。また，石塔一般への紀銘の形式として，願文右側・紀年左側形式を室町初頭頃まで，法名中央・紀年左右割書形式を明応年間頃より，法名右側・紀年左側形式を享録3年頃までという報告がある(註10)。ともに紀年銘を左右に割書することが新しい形式という指摘である。

房総の五輪塔を概観すると紀年左側形式はほぼ室町前期から江戸初期までみられるが紀年銘を年号と月日に割書する形式は総体的に新しいようである。

III

以上，房総の五輪塔についてみてきたが，他に五輪塔の形態として，下総型板碑に線刻されたもの（註11）や，利根川下流域に分布する砂岩製石祠内部に安置された極小五輪塔がある。また、この石祠の側面には，長足五輪塔を線刻しているものも確認されている。

その他には，墓塔として五輪塔形を陽刻したもの(註12)，いわゆる“やぐら”に五輪塔を陽刻したもの（註13）などがある。

今回，報告するにあたり石塔の実測，写真撮影などを心良く許可された，各寺院，また，船橋市西福寺塔についていろいろご教示下さった，金刺伸吾氏に厚くお礼申し上げる次第です。なお，トレースは吉岡弘子氏の手を煩わした。

（6班・班長）

註

1）千葉県企画部県民課編『千葉県史料，金石文篇一～三』昭50～55
2）『重要文化財極楽寺忍性塔保存修理工事報告書』昭52
3）石田茂作『日本佛塔』講談社　昭44
4）註2及び，伊原恵司「極楽寺忍性塔」『月刊文化財』昭52・9月号
5）野村隆「常陸三村寺跡五輪塔」『史迹と美術』第464号　昭51
6）望月薫弘「千葉市内の五輪塔調査報告」『千葉市文化財調査報告第1集』千葉市教育委員会　昭51
7）註6に同じ
8）田岡香逸「石造美術と規格」『近江の石造美術(3)』昭51
9）赤松秀雄「一石五輪塔雑感」『史迹と美術』第431，432号　昭48
10）蔵田蔵編『高野山奥之院の地寶』昭50
11）芝山町観音教寺「元弘三年」銘下総型板碑『千葉県史料，金石文篇一』昭50
12）館山市北条浄音寺跡所在墓塔など　千葉県企画部県民課編『千葉県史料，金石文篇一』昭50
13）館山市水岡所在やぐら，他